

【中学校の部】最優秀賞

あいさつでふるさとをつなごう

日出町立日出中学校 1年

柳井 ^{やない} 果乃子 ^{かのこ}

私は、あいさつが苦手でした。小学校に入学したばかりのころ、登校中に地域の方々が「おはよう。」

「気をつけて行ってらっしゃい！」

と、よく声をかけてくれました。その時私はぺこり、とおじぎをするだけで声を出してあいさつを返すことができませんでした。声をかけてくれてうれしい気持ちはありましたがはずかしくて声がでませんでした。そんな時学校の授業で、先生がこんなことを教えてくれました。

「あいさつは、したほうもされたほうも良い気持ちになるんだよ。」

私はハッとしました。いつも私にあいさつをしてくれる人を、私はいやな気持ちにさせているかもしれない。そう思うと、とてもかなしい気持ちになりました。それからは、あいさつをされた時は小さい声でしたが、

「おはようございます、ってきます。」

と言えるようになりました。それを毎日くり返していくうちに、自分からあいさつができるようになっていました。おはよう！と返してもらえた時は、とてもうれしい気持ちになりました。だんだん大きい声であいさつもできるようになってきた小学2年生の時、学校で気持ちのよいあいさつをした人が選ばれる「あいさつ賞」をもらうことができました。自分の元気なあいさつが人に伝わっていたんだなととてもうれしくなりました。私が、大きな声であいさつができるようになったきっかけは、地域のおじいちゃんやおばちゃんが毎朝、私に気持ちのよいあいさつをしてくれたからでした。見守ってくれているんだと安心して登校できたのも、その地域の人々のおかげでした。私が力をもらったように、あいさつの力で、私も誰かの役に立ちたいと思いました。また自分にできることはないか、と思うようにもなりました。小学校では毎月、高学年が校門に立ち登校してくる児童にあいさつをする「あいさつ運動」という取り組みをしていました。その姿がとてもかっこよく見えて、はやく私もやってみたいなと感じました。そして、いよいよ自分が高学年になりあいさつ運動で、校門に立つことになりました。高学年の子は、おたがいに顔みしりなので、元気にあいさつを返してくれました。そして低学年の子は、元気にあいさつをしてくれる子もいましたが、昔の私と同じように、おじぎをして走って行ってしまう子も多くいました。気持ちはとてもよくわかりました。そこであきらめずに毎月のあいさつ運動で、元気にあいさつをしていきました。すると、はずかしがってにげていた子が、

「おはようございます。」

と小さな声でしたが、あいさつを返してくれる日がやってきました。その時は本当にうれしかったです。やっぱりあいさつを返してもらうのは、気持ちが良いなと思い、さらにあいさつの大切さを感じるようになりました。

これからもっと気持ちのよいあいさいがあふれる町になってほしいと思います。私は、これからも笑顔いっぱい、あいさつを続けていきます。